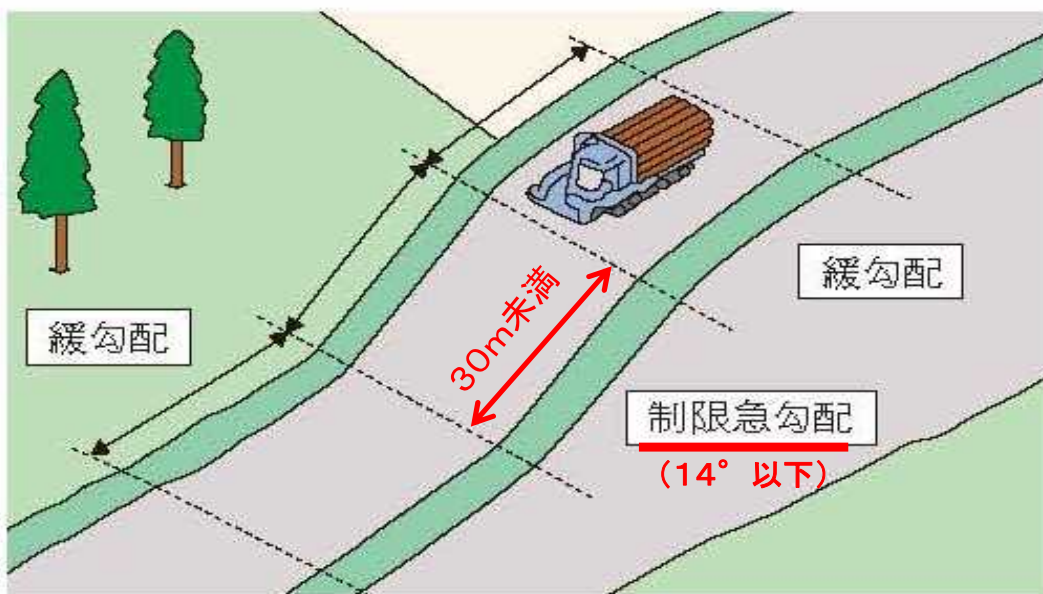


## 1 森林作業道作設技術

### ● 縦断勾配の基準の徹底について

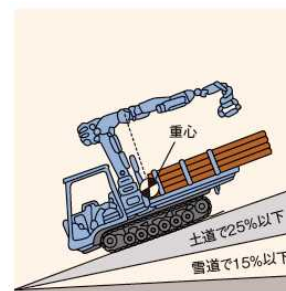
- 森林作業道の縦断勾配は概ね $10^{\circ}$ 以下を基本とし、やむを得ない場合は30mに限り $14^{\circ}$ 以下(制限勾配)としている。これは安全上の観点から規制しているものであることから、特に留意。
- 既設路を活用する場合も、縦断勾配は概ね $10^{\circ}$ 以下を基本とし、やむを得ない場合は30mに限り $14^{\circ}$ 以下(制限勾配)。



[林業・木材製造業労働災害防止規程

改正概要抜粋]

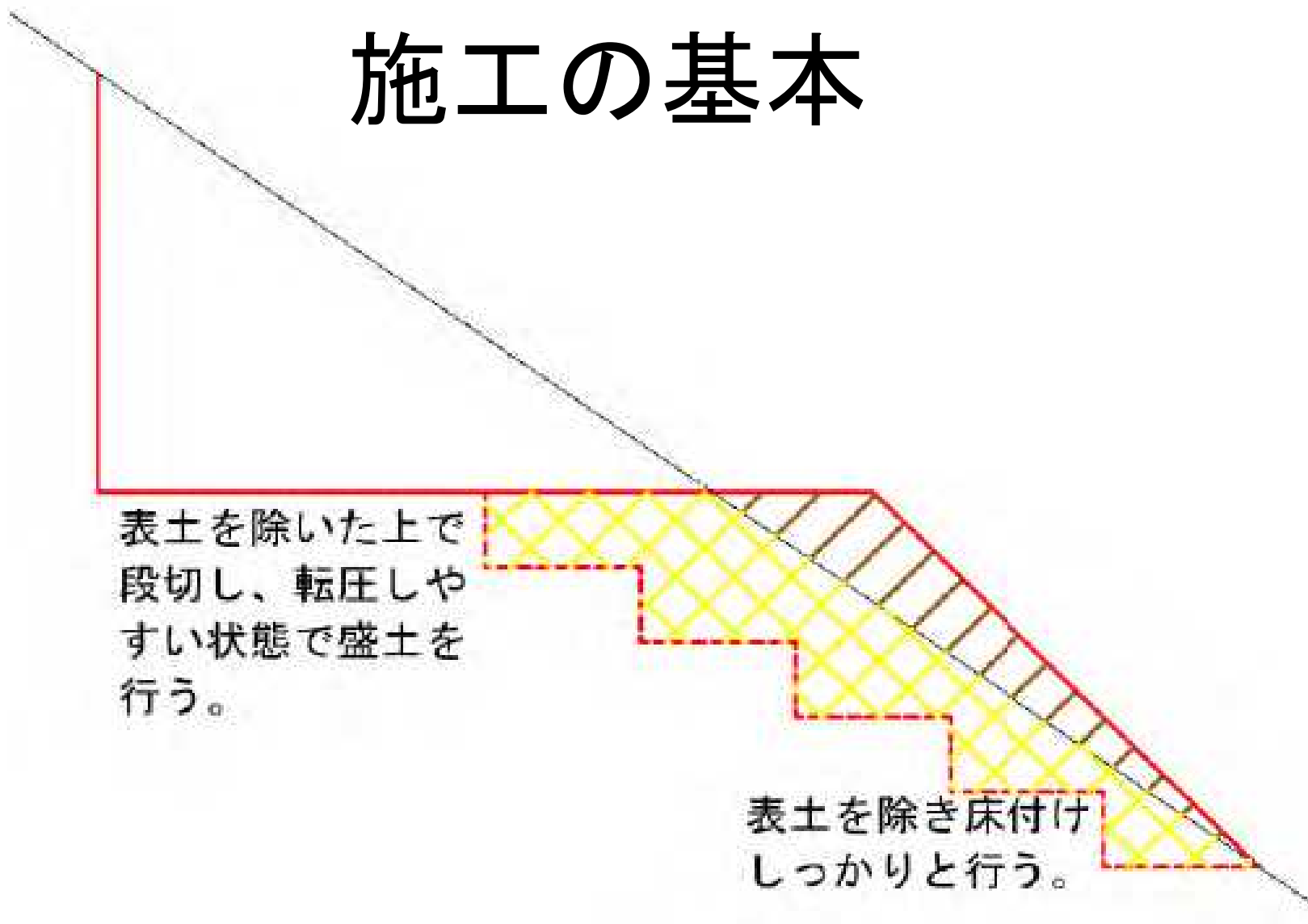
林業・木材製造業労働災害防止規程第115条(走行路の確保)では、30m以上の制限勾配を設けないこと、また、前後には緩和区間を設けることとされている。



# 作設の基本は盛土を作って道を造る



# 施工の基本



表土を除いた上で  
段切し、転圧しや  
すい状態で盛土を  
行う。

表土を除き床付け  
しっかりと行う。

※近年、大雨や集中豪雨等が多発しており、崩壊等の防止のため、盛土部分はしっかりと転圧し、路体の安定を図る。

## 2 採材・仕訳について

原木需要の高まりにより国産材の安定的な供給が求められていることから、採材・仕訳について、引き続き日本農林規格に基づき仕訳を適正に実施することが必要。

- ・多様な需要に応じた採材
- ・広葉樹新規需要への対応
- ・全署通じ安定した品質維持  
(信頼確保)



国有林材の安定供給  
付加価値向上

メジャーを当てての材長、延び寸  
(5cm程度)の確認。  
こまめな測尺装置の調整。

材長切れ、仕様と異なる  
ことのないように！！

一般材・低質材の  
仕訳の確認。



### 3 森林整備事業の生産性向上の取組

新たな森林・林業基本計画においては、「新しい林業」の実現に向けた低コスト化等を図りつつ国産材の供給を増やすことを目標としており、令和5年度から日報アプリの運用開始により工程管理を行うこととしている。

#### 生産性向上の取組

- ① 作業工程毎の生産性を的確に把握・分析
- ② 作業工程の中の「ボトルネック」を洗い出し、グラフ等により「見える化」を図り、定期的にグラフ化したデータを送付する。
- ③ ボトルネックの解消、効率的な作業仕組みを検討するために意見交換会を実施予定

#### 工程管理の実施

林野庁において開発を進めていた生産日報アプリの運用開始が令和5年度からとなるため、令和5年度以降(令和5年4月1日)の入札公告より、全物件で日報アプリの利用と考えている。

# 4 監督職員とのコミュニケーションについて

